特集

認知症を知る

9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。この日を中心に9月は「世界アルツハイマー月間」として、認知症に関するさまざまな啓発活動が行われています。

厚生労働省によると、認知症の患者数は、2025年には約700万人になると予測され、65歳以上の高齢者の約5人に1人の割合になると言われています。

誰もがなる可能性がある認知症。今回の特集では、認知症に関する理解を深め、認知症の方と関わっていくために、どのようなことが必要なのかを探ります。

オレンジリング

認知症サポーターキャラバンが開催する「認知症サポーター講座」を受講し、認知症サポーターとなった際に渡される、認知症サポーターの証

認知症とはどのような病態なのでしょうか。本市の認知症疾患医療センター（※3ページ左上参照）である社会医療法人慈生会ウエルフェア九州病院の鮫島稔弥（としや）院長にお話を伺いました。

認知症とはどのような病態なのでしょうか？

認知症とは一度獲得した知能が「何らかの理由」で低下している病態のことを言います。よく「物忘れ」と表現されますが、人の知能は普段の生活の中で多くの機能を担っており、障害された機能によって症状はさまざまです。例えば、記憶をつかさどる部位に障害が起これば物忘れが起こり、道具を使ったり計算をしたりする機能をつかさどる部位に障害が起これば失行という症状が起こります。「何らかの理由」として脳の神経細胞の変性（性質が変わること）、脳梗塞や脳出血、外傷などでの神経細胞の障害などがあり、それにより脳機能が低下してしまっているのが認知症です。また脳の機能障害は人の精神活動にも影響が起こり、思考の障害、感情のコントロール、睡眠と覚醒のリズムなどが乱れるようなことがあり、認知症周辺症状と呼ばれています。

どのような方が認知症になりやすいのでしょうか？

「これをしていれば認知症になりやすい」というのは、認知症もタイプによって発症の機序（仕組み）が違いますので一概には言えませんが、私が普段診療をしていて感じるのは、同じ認知症の方でも発症前後の生活の仕方によって予後に大きく差が出てくるということです。人の脳の機能は使わなくなればどんどんその機能は錆びついてしまい、使われていれば活性化されて維持できるようなところがあり、生活のほとんどを家に籠って過ごしている方とそうでない方とでは、前者の方が認知症の進行は早まりやすいようです。

認知症の初期症状やサインなどはありますか？

認知症はタイプによって症状の出方が異なりますので、「この症状があれば認知症」と決めてしまうのはあまり対応としてはよくありません。「今までできていたことができなくなった」という視点で見てみると良いと思います。例えば「何度も同じことを言うようになった」「さっき伝えたことを何度も聞いてくるようになった」「電気やガスの消し忘れが見られ始めた」「片付けや整理整頓ができなくなった」「ぼーっとしている時間が増えた」など、以前はできていたようなことができなくなってくるのが認知機能低下のサインです。

早期に認知症を発見できた場合、どのような治療ができますか？

認知症は治療して治る病気ではないということを知っておく必要があります。これは人が年をとり、老い衰えるという自然の摂理には逆らえないのと同義のことでもあります。病院等で処方できる「認知症治療薬」等は、必ずしも認知症の進行を遅らせるというわけではなく、認知症を発症した結果、出現した症状を少しでも改善するためのものです。認知症を患った結果、生活が立ち行かなくなり、どのタイプの認知症でも経過に伴い最終的には寝たきりの状態になります。寝たきりになるまでの時間をどこでどのように過ごしたいかは、十人十色で本人の意向や家族の意向でさまざまですが、医療や介護、地域のサービスを有効に活用し、できる限りその人らしい生活を続けられるようにするのが認知症治療のあり方だと私は考えています。

認知症は治るものではありませんが、認知症周辺症状としての思考の障害、感情の障害、睡眠障害などは、薬物療法などの治療で改善が見込めるものであり、早期の適切な介入によって生活の質の回復を期待できます。

高齢化が進むこれからの時代、自分の家族が認知症になった場合、どのようなことが重要だと考えますか？

超高齢化社会において、今や認知症は多くの人に認識されている対応すべき大きな課題の一つとなっています。介護者よりも要介護者の方が多くなる人口動態も予想されており、現在よりも認知症の対応は複雑化していくように思えます。

人にとっては「知らないこと」がより大きな恐怖と不安を抱える要因となってしまいますので、「認知症」＝「知らないこと」ではなく、認知症のことやその対応、相談できるところなどを知っておき、1人だけで抱えることがないように構えておくことが大事なのではと考えます。

●認知症疾患医療センター

認知症の方とご家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるために、認知症に関する専門医療相談や鑑別診断を行います。地域の医療・保健・福祉関係機関と連携しながら、認知症に関する支援を行う鹿児島県が指定する機関です。

本市では、ウエルフェア九州病院が認知症疾患医療センターに指定されています。

●このようなサービスを行っています

鑑別診断と初期治療

認知症に似た精神疾患（うつ病など）の可能性もあるため、検査等を行い、鑑別診断を行います。

周辺症状への急性期対応

幻覚妄想、不安、抑うつ症状、夜間せん妄などの救急対応や薬物療法を行います。

地域連携、研修会企画

かかりつけ医との連携を図り、医療と福祉の連携拠点としての役割を担います。

かかりつけ医等認知症疾患にかかわる医療・保健・福祉関係者向けの研修会や家族向けの研修会を開催します。

認知症疾患にかかわる情報発信

認知症疾患医療センターのホームページやパンフレット、広報誌を通じて、認知症にかかるさまざまな情報発信を行っています。

認知症は早期発見、早期治療が大切です。1人で悩まずに、まずは専門スタッフにご相談ください。

■ウエルフェア九州病院　☎72-4747（相談専用）